

「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」

受賞者全 10 件

# 「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」受賞者

## 内閣総理大臣表彰

特定非営利活動法人 T E D I C (宮城県石巻市) 宮城県推薦

合計 1 件

## 内閣府特命担当大臣表彰

愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部 (愛媛県新居浜市) 愛媛県推薦

おうめ若者カフェ (東京都青梅市) 東京都推薦

学生と地域で考えるまちづくり会 (北海道札幌市) 札幌市推薦

きみつ少年少女合唱団 (千葉県君津市) 千葉県推薦

高村 菊子 (青森県上北郡七戸町) 青森県推薦

長野県上田高等学校生徒会 (長野県上田市) 長野県推薦

株式会社MATCHA (東京都台東区) 外務省推薦

水沢ジュニアリーダーズクラブ「JUMP」 (岩手県奥州市) 岩手県推薦

渡部 佳菜子 (福島県耶麻郡西会津町) 外務省推薦

合計 9 件



## 内閣総理大臣表彰（1件）

特定非営利活動法人 てでいっく TEDIC （宮城県石巻市）宮城県推薦

### 活動概要

同法人は、東日本大震災直後から石巻市でボランティア活動を行っていた門馬優氏により平成23年5月に同市で、貧困、いじめ、ネグレクト、虐待等、困難な環境におかれた子供を支援し、すべての子供が「生きてて良かった」と思える社会をつくるため、任意団体として設立された。現在の活動人員は31名。

当初、生活困窮状態にある世帯の子供を対象とした学習支援と夕食提供が一体となった夜の場所づくり活動「トワイライトスペース事業」を展開、最近では「子ども食堂」も実施するなど、子供の居場所づくり、アウトリーチ、生活支援などの包括的な支援を関係機関や地域と協働し提供している。

### 評価理由

震災を機に立ち上がった若者たちが、さまざまな課題を抱える子どもたちを支援、地域を巻き込み、その活動を社会的事業まで引き上げる姿は、子供・若者に関する課題が多い日本において、今後活躍を期待する若者とはどのような存在なのかについて具体的なイメージを与えてくれる。若者主体の活動ではあるが、地域の多様な主体と協調し、子供の課題解決を目指すその姿は、若者の活動の一つの理想ともいえる。

困難を抱える子ども達の支援策として、トワイライトスペース事業、フリースクール事業（ホットスペース石巻）、子ども食堂と幅広く、複数の場所で運営しており、事業を利用している子供やその保護者の満足度も高いと認められる。関係機関との連携も良好で、運営を継続するための財政面での不安もなくなっている。



「トワイライトスペース」の様子



職員集合写真



ボランティア集合写真



「子ども食堂」の様子



## 内閣府特命担当大臣表彰（9件）

### 愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部

（愛媛県新居浜市）愛媛県推薦

#### 【活動概要】

平成9年に活動を開始し、現在の活動構成員は8人。

別子銅山の近代化産業遺産について調査・研究を行い、ホームページの制作やガイドブックの作成、小・中学生向けワークショップや一般市民向け学習講座の開催、産業遺産を巡るツアーの企画や案内などを行い、その魅力を積極的に情報発信するとともに、地域振興に大きく貢献している。

#### 【評価理由】

○高校生が、学校、NPO、地域企業、行政を巻き込んで地域の誇りを掘り起しており、大きな活力となっている。地域の歴史、産業、環境などの問題を勉強し、地域振興に大きな力を生み出している。

地元の産業遺産を中心とした地域のエコシステムにおいて、このユネスコ部もひとつの機能を担い、さまざまなシーンで存在感を出している。遺産の調査やガイドに留まらない地域ステークスホルダーとの連携は、観光振興を越えて「ひと」のつながりに発展し、参加している若者の成長につながっている。



ユネスコ部集合写真



ツガザクラ保護活動

### おうめ若者カフェ

（東京都青梅市）東京都推薦

#### 【活動概要】

平成23年活動開始、団体構成員7人。

若者のまちづくり、ネットワーク作りをつくる目的で活動を開始し、助成金のみならずクラウドファンディングにも取り組むなど、若者が自らの力で活躍の場を切り拓いている。2012年に始めた「おじいちゃんおばあちゃんコンテスト」いわゆる“ババコン”は地域を超え広がりを見せ、活動の場を広げている。また、若者カフェの特徴的な活動は異年齢交流であり、自分たちがやりたいことを実現するために若者が発信する地域活性化の取組は、若者以外の様々な世代にも影響を与えている。

#### 【評価理由】

若者による若者のためのイベントに留まることなく、高齢者世代を巻き込んで街を活性化させていく独創性は秀逸。

不足資金を補うために、クラウドファンディングなどを活用した自己調達にチャレンジする姿勢を評価したい。

ババコンは出雲商店街での開催など広がりを見せている。地域を巻き込んだ若者の街おこし運動である。



ババコンの様子



島根出雲大東駅ほたる祭でババコン



# 平成29年度 未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

## 学生と地域で考えるまちづくり会

(北海道札幌市)札幌市推薦

### 【活動概要】

平成19年に活動開始し、現在、団体構成員49名。

学生が、幌北連合町内会と連携して、地域の夏祭りやウォーキング大会などの地域行事に積極的に関わりながら、地区の歴史や地域活動にフォーカスを当てたフォトブック(ほらほら幌北)の作成や外国人留学生と地域住民の交流機会の創出、地域情報を発掘し発信するホームページの作成・運営などを通して、新たな活力を地域に吹き込み、地域課題の解決や地域の魅力の再発見に向けた協働の取組を進めてきた。

### 【評価理由】

若者が、若者同士だけではなく、若者と地域との連携のハブ機能を担っていることに大きな価値がある。特に外国人留学生と地域の交流は、ボーダレス化が進む社会において“そこにいる”人たちが相互理解をもとに手をつないでいく草の根の活動として大変重要である。

地域行事に企画段階からかわり、学生と地域が共に考える町づくりの仕組みができています。



幌北ふるさと夏祭りの様子



幌北ミニミニ雪祭りの様子

## きみつ少年少女合唱団

(千葉県君津市)千葉県推薦

### 【活動概要】

平成13年に活動開始し、現在、団体構成員55名。

君津市を中心に県内外で活動し、設立以来17年間、合唱で多くの人々に感動を与え、チャリティーコンサートのチケット収益を恵まれない子供たちや被災地に寄付し続けてきた。地元である君津の祭り、市の福祉事業、交通安全に関わるイベント等、依頼された公演には月2回の割合で参加し、地域に大きく貢献している。市内外のコンサート、チャリティー事業や県の式典などにも招かれて歌うことで、君津市の名を各地に広める役割をはたしている。

### 【評価理由】

震災地を訪問するなどの活動を通じて、災害や震災を理解し、それに対して歌を通して貢献・寄与することは、子供たちの将来により影響を与えている。

少子化のなかでも団員数と構成員数が維持されているのは、この合唱団から輩出された人材が活躍し、新たな子どもたちが参加する好循環を体現しているからと言える。



復興応援コンサート



いじめ反対運動ピンクシャツデーイベント出演

# 平成29年度 未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

たかむら きくこ  
**高村 菊子 殿**（青森県上北郡七戸町）青森県推薦

## 【活動概要】

平成24年に活動を開始。高齢者や視覚障害者に対するインターネット利用時の危険性等に関する啓発活動を出発点に、インターネット環境の安全な利用について、ボランティア活動として、県内の小・中・高校を熱心に訪問し、対象者のニーズに合った講演活動を展開してきた。

また、インターネット上の有害情報を監視するネットパトロールも行い、県内児童生徒や高齢者等の安全なネット利用に大きく貢献した。

## 【評価理由】

子供達とインターネットの課題に関する問題意識を学校での啓発活動という行動によって明確化し、リーダーシップを発揮しながら、青森県における同課題への取組の機運を大きく高めた。

子供たちをスマホからの害から守るために、子供達の視点に立って、工夫して精力的に活動してきた。



高村 菊子さん



青森県立青森北高校講演の様子

## 長野県上田高等学校生徒会

（長野県上田市）長野県推薦

## 【活動概要】

平成24年に活動開始し、現在の団体構成員1,069名。

上田高校では、東日本大震災が発生した翌年から、同校の文化祭（松尾祭）の企画の一つとして「松尾菜for福島」と題し、福島県の農産物の販売を行っている。これは、原発事故による風評被害に苦しむ農家を支援するために、生徒が自ら福島に足を運び、様々な団体と連携しながら企画したものである。生徒会の先輩の意志を代々受け継ぎ、今年で6回目の開催となった。

## 【評価理由】

震災後の風評被害に問題意識を持って始まった農産物販売の自発性もさることながら、いまに至ってもその意志と意味を引き継ぎながら、現地である福島と上田の地域をつなぐ活動を継続している点は評価できる。

自発的に放射線量の計測をし、農家と緊密な連絡を取って活動するなど自主的な活動が評価できる。農家を招いて震災被害者の声を直接聞きながら、被災地支援を継続しているところはすばらしい。



H27販売時の様子



H24開店前の行列の様子



# 平成29年度 未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

まっちゃ

## 株式会社MATCHA (東京都台東区) 外務省推薦

### 【活動概要】

平成25年に活動開始し、現在、団体構成員20名。

現在毎月150万人が見る日本最大級の訪日外国人向けメディアを運営。同メディアは、言語数は10言語(日本語、英語、中国語繁体字、中国語簡体字、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、やさしい日本語)で構成され、現在20以上の自治体と連携し、訪日外国人への情報発信の強化に努めている。また、外国人ならではの視点を盛り込んだ記事制作を行うことで、訪日外国人の滞在価値の最大化に寄与している。

### 【評価理由】

日本の良さが海外の人にも日本人にも知られていないという問題意識から、日本の観光に対してうまくアドバイスできないかという思いを行動により改善しようとした。特に、訪日外国人が増加するなかで、海外の方の視点に立った経営運営は社会性と事業性を併せ持った素晴らしいモデルである。



代表の青木 優氏



日外国人向けメディア  
MATCH

## 水沢ジュニアリーダーズクラブ

「JUMP」(岩手県奥州市) 岩手県推薦

### 【活動概要】

平成6年に活動開始し、現在、団体構成員14名。

水沢区内の中高生を中心に、主に地域のイベントや福祉事業での企画・運営に関わっている。平成15年から開催されている岩手県ジュニアリーダー活動集会では、同団体のメンバーが毎年実行委員会をけん引するなど、地域を超えた活動にも積極的に取り組んでいる。

### 【評価理由】

長年にわたる活動は、地域に定着している。特に、子どもの居場所事業は、通常、企画から運営までを当事者でない大人世代が担うことが多いなか、JUMPにおける居場所事業は、まさに当事者世代が運営するという、利用者・参加者にとっても同じ視線で創られたものであり、自分たちの居場所は自分たちで作っていく主体性を育む枠組みである。

定例活動として、乳幼児との触れ合い活動を継続しており、相互に良い学びができています。



H28年 岩手県大会打ち合わせ  
の様子



「ちびっこ広場」の様子  
(大切に大切に赤ちゃんをだっこ)

# 平成29年度 未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー

わたなべ かなこ

## 渡部 佳菜子 殿

(福島県耶麻郡西会津町) 外務省推薦

### 【活動概要】

平成23年活動開始した。就農直後に東日本大震災に見舞われるが、野菜作りをとおしてまちを盛り上げようと精力的に様々なイベントに参加をしたり、お客とコミュニケーションをとりながら、野菜の販売を行っている。また、“かっこいい”“魅せる農業”をめざし、地元の小中学校をはじめ、都会から人を誘致する「グリーンツーリズム」を積極的に行い、訪れた人に農業を体験してもらっている。

### 【評価理由】

農業という仕事を若者の多様な視点でとらえ、地域と地域を越えたエコシステムを構築しようとしている。何より、自分の仕事を越え、次代の農業を担う立場から、自らのビジョンと実践、周囲を巻き込むリーダーシップを持つ人材として、今後、地域と世界をつなげていく期待がもてる。

福島農業を若者らしい感性で復興させようとしている。



渡部 佳菜子さん



マルシェにて対面販売  
している様子